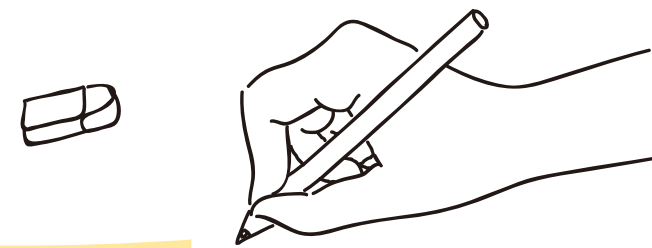


県民活動紹介



地域あんでな

県民活動推進委員 中村 久 (美祿市)

秋芳八代ぬくもりの里

秋芳八代ぬくもりの里は、廃校となつた八代小学校を地域の憩いの場として、平成20年6月にオープンしました。
毎年、ホタル祭、ソバ花祭、おひな様祭、地域を食べよう会など豊かな自然の中で四季折々のイベントを開催しています。

また毎月、合唱会・講演会・福祉会・食事を開き、地域の方々の交流の場となっています。
集いのモットーは、大きな声で笑い、楽しく語り合うことです。喜怒哀楽を存分に出し合い、豊かな心で支え合います。イベントはホームページでお知らせしており、ごなたでも参加できるので、お気軽にお越しください。



団体紹介

会長 末益 絵里 (阿武町)

こどもらぼ

子どもたちが地域の人たちの様々な体験を通じて、自身の成長とふるさとへの愛着が深まることを願い、町内に住む保護者を中心に平成29年から活動を始めました。
主な活動は、町の特産物であるキウイ、豆腐作りに使われる大豆の農業体験や、澄んだ秋空のもとでの星空観測など、子どもたちが地域のことを知り、人と触れ合うことの出来るイベントを、地域の方のご厚意をいただきながら催しています。
これからも町内の各所で、この活動を続けていきたいと思っています。



理事長 永田 憲男 (下松市)

降松平和の里ハイキングの会

下松市など周南3市にまたがる中宮山には、大阪の四天王寺、奈良の法隆寺と並ぶ「中宮」、正式には妙見本宮降松神社があります。聖徳太子の命を受け創建されたとされる中宮は、太子に通じるパワースポットとして知られています。
そこで、私たちは、多くの皆さんに中宮山一帯を歩き、パワースポットとして感じてもらいたいと考え、まずハイキングコースを整備することから始めました。
また、子どもたちとともに、しだれ桜と陽光桜をコースの要所に対して植える植樹祭を開き、スロージョギングを基本にしたスローハイキング大会も開催し、これからも、市民の健康つくりと文化財保全につながるよう取り組んでいきたいと考えています。



県民活動推進委員 宮脇 章子 (平生町)

子育て支援ボランティアサークル「きらきら」



「乳幼児を連れて、親子が楽しめる機会が欲しい」という思いでできた、平生町内唯一の子育て支援の自主サークルです。
子育て中のママを中心にイベントを企画・運営し、子育てを頑張る保護者がリフレッシュできる場、親子で新しいお友達を見つける場、悩みや情報交換ができる場を、楽しく提供できるように努めています。

また、子育て中の方や地域の方と、子育て支援をしてくださる食生活改善推進員や企業が集い交流する「きらきらSHOP」を毎年、開催しています。
地域の子育て支援や、人と人が繋がる機会の一助になればと願いながら、スタッフ一同、活動しています。

会長 小茅 稔 (萩市)

浜崎しっちゃん会

私たちが活動する萩市浜崎地区は、武家屋敷や土堀が立ち並ぶ城下町とは異なる「商人の町」で、廻船業や水産業で繁栄し、江戸期の萩藩の経済活動を担った港町でした。平成13年に国の伝統的建造物群保存地区に選定され、今も重厚な町家が数多く残り、国指定史跡「御船倉」とともに古い町並みを形成しています。
「商人の町・浜崎」を広く知ってもらうため、「浜崎伝建おたから博物館」、「御船倉コンサート」などのイベントを開催し、また古民家管理やガイドも行っています。
活動を始めて20年になりますが、これからもいろんなことにチャレンジしていきたいと考えています。



リレーコラム「はじまり」

企画運営委員 河村 英明
「オーガニックショップ連華」も、スタートから2年を迎えました。いろんなご縁も広がり、いつも初心に返ることを大切にしています。
この事業を通して、提供する価値や大切にしていきたい思い。その一つが、考えたり、繋がったりするきっかけを作ることです。
制作に関わっている「ピュアネット」も、読んだ方が何かきっかけを感じていただけたら、それは小さな一歩でも可能性が大きく広がると思います。
これからも、新しい取り組みへ踏み出し、いろんなはじまりのきっかけを作っていきたいです。

企画運営委員 藤本 博美
令和の時代が始まった今年、私自身も「はじまり」の多い年で、仕事では、新たに会社を設立し新事業を始め、プライベートでは、母がしている祖母の介護の手助けをすることになりました。
新しく物事を始めるとき、その段階で、何かを終わらせたり、手放したり、計画を立てたりするなど、自分の気持ちと向き合う機会ができました。
また、「始末」という言葉がありますが、この言葉には「物事の締めくくり」という意味があります。自分としっかり向き合い、始末することで、気持ちよく次のスタートが切れるのだと思います。

企画運営委員 柳澤 裕美
小学生の子どもが、陸上大会の400mリレーに参加しました。
走ることは大好きなのですが、バトンの受け渡しには不安があったようで、学校での話し合いの時に「一番走者がいい」と希望を口にしたら、上級生から「第一走者の順位が一番重要だけど、一位になれるか？」と聞かれ、とても一位になる自信はなかったので二番走者に決まったと話してくれました。
初めての参加でしたが、四人の頑張りでチームは一位となり嬉しそうに帰ってきました。